

平成19年度第1回理事会記録

日時： 2007(平成19)年4月7日(土) 15:30 - 18:15

場所： ホテルサンルート仙台

出席者：板垣信哉（会長），高梨芳郎（副会長・九州），野田哲雄（副会長・関東甲信越），瀬川俊一（理事・関西），大里文人（九州・理事），松本達也（四国・理事），足立和美（中国・理事），大下邦幸（中部・理事），佐々木正彦（東北・理事・事務局 HP 補佐），森永正治（北海道・理事），アダチ徹子（九州・幹事・大分研究大会実行副委員長），松浦伸和（中国・理事），紺渡弘幸（中部・理事），萬谷隆一（北海道・理事），柳井智彦（大分研究大会実行委員長），御手洗 靖（大分研究大会事務局長），深澤清治（紀要編集委員会委員長），酒井英樹（紀要編集委員会事務局長），金谷憲（前会長・オブザーバー），馬場哲生（前事務局長・オブザーバー），猪井新一（次期紀要編集委員会委員長・オブザーバー），佐久間康之（次期紀要編集委員会事務局長・オブザーバー），滝沢雄一（次期紀要編集委員会事務局補佐・オブザーバー），金子朝子（東京研究大会実行委員長・オブザーバー），佐藤博晴（事務局会計補佐），久保田佳克（事務局長）

議事：

1. 2007（平成19）年度役員について

理事会資料1に基づいて，事務局より2007年度役員について報告があった。

■資料1：全国英語教育学会2007（平成19）年度役員一覧

2. 2006（平成18）年度会員名簿について

馬場前事務局長より，2006年度会員名簿について，現在確認作業中であり，完成次第，各地区学会事務局ならびに紀要編集委員会に送付する旨，報告があった。

また，馬場前事務局長より，全国会員としての申し込み・会費納入の方法について，他の地区学会と違って，関東甲信越学会は地区学会で取りまとめをせずに全国事務局へ直接行っており，どちらの方法が適当か，今後検討すべきであるという問題提起があった。

3. 2006（平成18）年度決算について

馬場前事務局長より決算に関する資料が提示され，現時点ではまだ監査が終了していないために，正式な決算報告は8月の第2回理事会で行われる旨の報告があった。

■資料：平成18年度決算（案）

4. 2007（平成 19）年度予算案について

馬場前事務局長より暫定的な予算に関する資料が提示され、8月の第2回理事会で正式な予算案が現事務局より提示されるとの報告があった。

■資料：平成 19 年度予算（案）

5. 全国英語教育学会紀要 ARELE 第 18 号編集経過ならびに学会賞候補者推薦について
深澤紀要編集委員会委員長より、理事会資料 2 に基づいて、ARELE 第 18 号の編集経過についての報告があった。全国会員への送付は 5 月末になる予定である。また、得点表に基づいて、今年度の学会賞の提案が行われ、了承された。その後、当日配布の資料に基づいて受賞者の氏名・所属・論文タイトルが報告された。学会賞の氏名等の HP への掲載について、8月の総会后掲載し公表することが確認された。

また、紀要編集委員会事務局より、今後の編集委員・査読委員の変更は新紀要編集委員会事務局へお願いするとのお知らせがあった。

■資料 2：全国英語教育学会紀要編集委員会報告

資料 2-1：ARELE Vol.18 投稿論文得点表

資料 2-2：全国英語教育学会紀要編集委員会委員一覧

資料 2-3：全国英語教育学会紀要査読委員一覧

6. 第 33 回大分研究大会について

6.1 当日配布の資料に基づいて、柳井大会実行委員長および御手洗大会事務局長より大分研究大会の詳細についての報告があった。事前に各地区学会には連絡してあったように、大会実行副委員長と事務局長が交代し、大会役員が以下になることが了承された。

大会実行委員長	柳井	智彦
大会実行副委員長	アダチ	徹子
大会事務局長	御手洗	靖

6.2 発表要領 1 の表現について、以下のことが確認された。

【発表要項 1 の発表者の資格：個人会員】の文章表現等、具体的な字句については、大会事務局に一任するが、以下の方針のとおりとすることが了承された。

・単独での研究発表の場合、発表者は全国会員として登録（発表予定の前年度の 2 月末日までに会費を納入）していることが条件である。

・共同研究での発表の場合、発表代表者が全国会員であり、かつ、共同発表者に全国会員でない方が含まれている場合、発表代表者は所属する単位（地区）学会事務局にその旨を連絡し、研究大会実行委員会が定める発表申し込み日までに発表者全員が全国会員として登録するよう責任を持つものとする。

・大会事務局は、単独での発表者及び共同研究の代表者が全国会員であることを確認する

(会員名簿に基づいて)。

・単位(地区)学会事務局は、非全国会員である共同発表者の研究大会実行委員会が定める発表申し込み日までに全国会員として登録を確認する。

6.3 課題研究・問題別討論会・シンポジウムの発表者については、非会員でも構わないということが確認された。

6.4 団体会員についての質問があり、いくつかの地区学会より現状報告がされた。今回の大会については、個別に会長が判断することとなった。

■資料：第33回 全国英語教育学会 大分研究大会要項(案)

7. 課題研究フォーラム、問題別討論会担当と進め方

理事会資料3に基づいて、大会等のローテーションが確認された。

松浦理事から「課題研究」については、2年間の継続研究の後に出版にこぎつけるというのがもともとの趣旨であったが、現在はそのようになっておらず、新しい形を8月の理事会で提案したいという旨の発言があった。

また、板垣会長から課題研究・問題別討論会・シンポジウムのコーディネーター・提案者およびタイトルについては、従来は本部事務局が行ってきっていたが、大会事務局が行う方が円滑にいくという提案がなされ、了承された。

■資料3：全国英語教育学会 大会等担当ローテーション

8. 第34回東京研究大会について

理事会資料4に基づいて、野田副会長および金子大会委員長より、東京研究大会についての準備経過が報告された。

■資料4：第34回全国英語教育学会 東京研究大会(案)

9. その他

9.1 中国地区英語教育学会より、第35回全国英語教育学会(中国地区担当)について、鳥取大学を会場として、準備を進めているとの報告があった。

9.2 板垣会長より、「理事会での申し合わせ事項」を整理し、文書を作成してはどうかという提案があり、了承された。原案は本部事務局で作成され、平成19年度第2回理事会に諮られることになった。

平成19年度第2回理事会記録

日時： 2007（平成19）年8月3日（金） 17:30-19:40

場所： 大分第一ホテル

出席者：吉田 一衛（名誉会長）板垣 信哉（会長），三浦 省五（副会長），高梨 芳郎（副会長），野田 哲雄（副会長），瀬川 俊一（理事・関西），相澤 一美（理事・関東），大里 文人（理事・九州），松本 達也（理事・四国），足立 和美（理事・中国），大下 邦幸（理事・中部），佐々木 正彦（理事・事務局 HP 補佐・東北），森永 正治（理事・北海道），吉田 信介（幹事・関西），片桐 一彦（幹事・関東），アダチ徹子（幹事・九州・大分研究大会実行副委員長），寺嶋 健史（幹事・四国），松浦 伸和（幹事・中国），紺渡 弘幸（幹事・中部），萬谷 隆一（幹事・北海道），猪井 新一（紀要編集委員会委員長），杉浦 正好（紀要編集副委員長），中村 博生（会計監査・関東），柳井 智彦（大分研究大会実行委員長），佐藤 博晴（事務局会計補佐），馬場 哲生（前事務局長・オブザーバー），高橋 俊章（前会計監査・オブザーバー）久保田 佳克（事務局長）

議事：

1. 事務局から総会に提起する議題について

- ① 2006（平成18）年度 会務報告 総会資料 1 馬場
前事務局長から総会資料1に基づいて2006年度の会務報告があり，了承された。
- ② 2006（平成18）年度 会計報告 総会資料 3 馬場
前事務局長から総会資料3に基づいて2006年度の会計報告が行われた。
- ③ 2006（平成18）年度 会計監査報告 総会資料 3 高橋
前会計監査から，2006年度の決算の結果，適正な会計処理が行われている旨，報告があり，了承された。
- ④ 2007（平成19）年度 事業計画 総会資料 2 事務
局長から総会資料2に基づいて2007年度の実業計画が提案され，了承された。
- ⑤ 2007（平成19）年度 予算案 総会資料 4 事
務局長から総会資料4に基づいて2007年度の予算案が提案され，了承された。なお，慶弔規程について意見が出され，事務局で検討することとなった。
- ⑥ 2007（平成19）年度 役員 総会資料 5/理
事会資料 1
事務局長から総会資料5および理事会資料1に基づいて報告があった。板垣会長から，本部事務局および紀要編集委員会事務局の補佐は，現在の規約では存在しない役職であるが，

役員名簿に載せることが提案され、了承された。補佐の掲載方法に関しては、会長から「誤解がないように工夫する」旨の説明があった。なお、理事会資料 1 の編集委員会の部分に若干誤りがあったために、後日訂正したものを各役員に送付することで了承された。

■ 総会資料，理事会資料 1

2. 第 33 回大分研究大会について

大会委員長より、大会運営について最終報告と連絡があった。

■ 大分研究大会予稿集

3. 第 34 回東京研究大会について

片桐東京研究大会実行副委員長より理事会資料 2 に基づいて、大会の概要につき説明と提案があり、審議の結果、以下のことが了承された。

① 大会概要

開催日：平成 20 年 8 月 9 日（土）・10 日（日）

会場：昭和女子大学

大会実行委員会

全国英語教育学会会長 板垣信哉

大会実行委員長 金子朝子（昭和女子大学）

大会副実行委員長 相澤一美（東京電機大学）

片桐一彦（専修大学）

大会事務局長 高味み鈴（昭和女子大学）

② 大会ホームページ作成用の 250 字要約提出を取りやめる。

③大会予稿集原稿は、発表件数の増加が予想されることから、従来の A4 版 2 ないし 4 枚ではなく、A4 版 2 枚とする。

④ 研究発表申込締め切り・予稿集用原稿締め切りを例年より早めて、それぞれ 5 月 23 日（金）、6 月 13 日（金）とする。

⑤ 自由研究発表における司会をなくし、教室機器世話役兼タイムキーパーの学生アルバイトを各教室に配置する。

⑥ 大会参加費当日払いを 5,000 円とする。

⑦ 大会予稿集の最後に協賛企業・団体からの広告を掲載する。

なお、②～⑦ については東京研究大会で変更するもので、その後の大会について縛るものではない。その後の大会についてはその結果を見て検討する。

■ 理事会資料 2：第 34 回全国英語教育学会東京研究大会（案）

4. 第 35 回鳥取研究大会について

中国地区英語教育学会の足立理事，松浦幹事より，鳥取研究大会の準備状況についての報告があった。

① 開催日：平成 21 年 8 月 8 日（土）・9 日（日）

② 会場：鳥取大学湖山キャンパス共通教育棟

③ 企画については，現在情報を収集しており，ミニフォーラム等の新しい企画を考えたい。来年度の理事会で提案する。

5. 研究紀要 ARELE について

猪井紀要編集委員長より，同委員会の審議に基づき，下記の事項について報告があった。

① ARELE 第 18 号の刊行について

② 紀要編集委員・査読委員の交代について

③ ARELE 第 19 号の編集計画について

■ 理事会資料 3：紀要編集委員会議題等

6. 理事会申し合わせ事項について

板垣会長より，理事会申し合わせ事項についての提案があり，今後はメール会議等で継続して審議し，来年度の理事会で最終決定することとなった。以下の事項は了承された。

① 第 1 回理事会は 3 月最終土曜日，4 月第 1 土曜日のいずれかとするが，各大学等の事情と各役員の見解を考慮した上で，会長・事務局で判断する。

② 第 1 回理事会の開催場所は，会長・事務局の判断とする。

③ 学会賞は現在 1 種類だけであるが，将来的には枠を広げて 2 種類とする。

■ 理事会資料 4：全国英語教育学会理事会申し合わせ事項（案）

7. その他

関東甲信越英語教育学会の片桐事務局長から，関東甲信越地区の全国会員の会費納入方法について説明があった。全国事務局からの要請を受けて，来年度から他の地区学会で行われている全国会員の会費納入方法に合わせて，地区学会で集約して全国事務局に送るという形をとることにするが，この方法は当分の間変えないでほしいとの要望があり，理事会として了承した。